



HEADLINE

- (1) 6月のマネートピックス
- (2) 今月の金利情報
- (3) コラム～★FPのひとりごと★～
手数料負担が軽い投資信託で十分な理由
- (4) FPコバさんより ～写真クラブの写真がインターネットで見れます～

●マネートピックス

- ◇米自動車大手GM、連邦破産法 11 条を申請 (6月1日)
新生 GM は米・カナダ両政府の追加支援を受け、両政府が合計 72% 出資する政府管理企業として再出発。
- ◇08 年は出生率、出生数ともに上昇～厚生労働省 (6月3日)
出生率は 05 年に記録した過去最低の 1.26 から上昇を続け 1.37。出生数も、うるう年の影響もプラスされて 2 年ぶりに増加。
- ◇50 年固定金利の住宅ローン「フラット 50」が登場 (6月4日)
「長期優良住宅」の購入促進のため、住宅金融支援機構は返済期間を最長 50 年まで延長し月々の返済額を軽減するローン商品を開発。
- ◇世界の公的債券発行が急増、年初から約 1 兆ドル (6月8日)
各国政府は景気対策の財源として国債発行を拡大。国際金融機関も新興国・途上国支援資金調達のため債券発行を活性化。年初からの発行額は既に 9,852 億ドルと前年同期の 2.4 倍。長期金利上昇要因。
- ◇日経平均株価、8 カ月ぶりに終値で 1 万円を回復 (6月12日)
- ◇6 月の月例経済報告、「景気底打ち」を宣言 (6月17日)
景気の基調判断を 2 カ月連続で上方修正し、7 カ月ぶりに「悪化」の表現を削除。生産や輸出の持ち直しを受けて、主要先進国の中で最も早く「景気底打ち」を宣言。先行きについては、雇用情勢の悪化や世界景気の下振れなどを注視したいと慎重姿勢を維持。
- ◇OECD、経済見通しを上方修正、2010 年はプラス成長 (6月24日)
加盟 30 カ国の実質経済成長率を、09 年は▲4.1%、10 年はプラス 0.7%と予測。3 月時点の予測 (09 年▲4.3%、10 年▲0.1%) からともに上方修正した。世界景気は持ち直しつつあるが、回復力は弱く、失業率上昇などが懸念要因と指摘。
- ◇5 月の消費者物価指数、前年同月比 1.1%低下～総務省 (6月26日)
生鮮食品を除いたベース。比較可能な 1971 年以降で最大の下落。
- ◇5 月の完全失業率、5.2%に悪化～総務省 (6月30日)
前月比 0.2 ポイント悪化。働き盛りの 35～44 歳層の悪化幅が大きく、個人消費への影響が懸念される。過去最悪の 5.5%を突破するかに注目。厚生省発表の有効求人倍率も 0.44 倍と過去最悪を更新。とりわけ正社員の求人は 0.24 倍と 4 人に 1 人分の職しかない。

●金利データ

		2009年7月3日現在	前月比
政策金利(無担保コール翌日物)		0.10	→
公定歩合		0.30	→
短期プライムレート(都銀 最頻値)		1.475	→
長期プライムレート(みずほコーポレート銀)		2.10	→

<主要国 政策金利>

米国FFレート(誘導目標値)	0.0~0.25	→
EU/ECB主要政策金利	1.00	→

◆貯蓄

*年平均利回り

三菱 東京 UFJ 銀行	普通預金		0.040	→	
	貯蓄預金(10万円以上)		0.050	→	
	スーパー定期預金 (300万円未満)	1ヵ月		0.100	→
		1年		0.200	→
		3年		0.250	→
外貨定期 1年	米ドル		0.010	→	
	ユーロ		0.250	→	
	豪ドル		2.060	+0.20	
ゆうちょ 銀行	通常貯金		0.05	→	
	定額貯金	3年以上	0.250	→	

野村 証券	MMF (運用実績)		* 0.178	→
	外貨建てMMF (運用実績)	米ドル	* 0.246	→
		ユーロ	* 0.352	→
		豪ドル	* 2.448	→

国債	個人向け国債(7月)	固定・5年	0.82	+0.11
	募集終了 次回は9月募集	変動・10年	0.73	+0.23
	利付国債10年(302回/7月発行)		1.4	▲0.1

◆ローン

フラット35は金利に保証料相当分を含む

住宅ローン (三菱東京UFJ銀行)	変動型		2.475	→
	固定・5年		3.650	+0.05
		固定・10年		3.950
フラット35	保証型		3.760	▲0.23
フラット35(買取型)	21年以上	2,820~3,960		→
		最多 3,070		→
	20年以下	2,620~3,760		→
※住宅金融支援機構 発表		最多 2,879		→
フラット50	36~50年	3.48~3.93		新

世界的な国債、国際機関債の大量発行で長期金利上昇が懸念されている。新興国・資源国通貨や商品、株式市場に投資マネーが戻ってきた。景気後退のスピードが遅くなっているのは確実だが、経済指標も強弱入り混じる中、長期金利はいったん頭打ち。6月4日、最長50年固定金利の住宅ローン「フラット50」発売。

コラム～★FPのひとりごと★～

手数料負担が軽い投資信託で十分な理由



投資信託をどのように選べばよいのか、よくわからないという人のために、ヒントを。投資信託のパフレットを集めたら、とにかく申込手数料と信託報酬の欄を確認し、それらの数字の少ないものをピックアップしてください。ベースとなる考え方は、効率的市場仮説の立場に立って、パッシブ運用を行う投資信託を選択すればよい、という結論です。

効率的市場仮説とは、現在の市場価格や株価は、多くの投資家がさまざまな思惑を元に市場に参加するがために、結果的にあらゆる情報がすべて株価に織り込まれてしまう、という仮説です。この仮説によると、ほとんどの投資家の運用成績は、手数料分、インデックスに劣ってしまうことになっています。

ちなみにインデックスとは、テレビのニュースや新聞などで報道される、日経平均や TOPIX などの株価指数のことです。日本の株式市場に上場されている銘柄の値動きが、インデックスに反映されます。

たとえ経験の長いプロのトレーダーであっても、つい最近始めたばかりの一般投資家であっても、市場では平等に扱われます。実際のところ、どのような立場の人だろうと、ある時点で運用成績がインデックスを上回る可能性は 50% です。

どんなに頑張っても銘柄選択をしたところで、成功すればそれはまぐれ、失敗すれば自己責任。運用成績を平均すればインデックスを上回る人がほとんどいないならば、銘柄選択に情熱を注ぐのは無駄とも思えます。ましてや一般投資家は本業を別に持ち、金融資産運用は片手間のはずです。ならば、金融資産運用は投資信託を選択するほうが合理的でしょう。

では、投資信託の中から、何を選べばよいのでしょうか？

投資信託の運用方針を元に、大きく 2 つに分けます。

ひとつは、パッシブ運用です。パッシブ運用では、インデックスと同等の運用成績を目指します。TOPIX が 1% の上昇になったとき、同様に 1% の上昇になるような運用が行われます。その際、銘柄選択にはそれほどコストがかかりませんし、銘柄の売買もおおむね自動的に行われています。必然的に信託報酬などの手数料が低めになります。

もうひとつは、アクティブ運用です。こちらは、市場が効率的でないという立場で、企業調査を行い、今後の成長に期待できる株式や、割安と思われる株式を買ったりして、将来の株価の上昇を期待する運用です。TOPIX が 1% の上昇になったとき、それを上回る 1.2% とか 1.5% などの上昇を目指します。一般的に、アクティブ運用は、調査活動にコストがかかるため、信託報酬などが高めに設定されています。

最初に、ほとんどの投資家の運用成績は、手数料分、インデックスに劣ってしまう、と書きました。ならば、運用成績に直接影響するのは何か？ やはり手数料です。

すなわち、投資を始めるときに必要になる申込手数料が安いもの、運用を続ける間、ずっと負担が必要になる信託報酬の割合が低いものを探せばよい、ということになります。手数料が安いものとはすなわち、インデックスと同等の運用利回りを目指す、パッシブ運用の投資信託なのです。

まずは、身近な証券会社の外務員に、「手数料や信託報酬の安い投資信託を探しているのだが、インデックス投資信託について教えてくれ」と、聞いてみてください。

CFP 認定者 松本 勝晴

<http://mfpooffice.org/>

● FPコバさんより ～写真クラブの写真をインターネットで見れます～

趣味で写真の会に属しています。活動は毎月の撮影会・展示批評会と、年 1 度の区立美術館での発表会。年 1 度の発表会の前回のテーマは「光・灯」。初めは簡単となめていたのが、これが大変。噴水を逆光に撮ってキラキラさせるイメージや、夕日と富士山のイメージも悉く失敗。遂には 5 年ほど前に撮った「灯籠流し」を出してやれやれとなりました。他に自由作品が 2 点。内 1 点は 2 ヶ月ほど前に撮った水鳥の「バン親子」。ピントも、背景処理も、構図もよし。こうした写真がいよいよインターネットで全部見て頂けることになりました。嬉や、嬉や！！
こちらをご覧ください。小生の作品も 4 点入っています。 <http://photozou.jp/photo/top/247526>